

児童発達支援事業所における自己評価結果(公)

公表: 令和 年 月 日

事業所名: ことばと発達の相談室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		1階と2階をお子さんに合わせて使い分けている。	物理上、1階に個室を作ることは難しい。また、子どもたちは保育園や学校等刺激の多い中で活動するため、防音室等を作ることは現実的ではない。仕切り等を利用して刺激の統制をおこないながら、本人の力を伸ばしていく支援をする。
	2	職員の配置数は適切である	○		セラピストを多く配置している。 同フロアで複数人の活動を展開している。	他の利用者がいても集中して活動に取り組むことができるよう、個別で対応しながら、少しずつ自立課題へ移行できるよう支援していく。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○			物理上階段での移動が必要である。安全にしっかり配慮しながら対応していく。 安全性に不安がある場合は、1階での支援に切り替えるなど一人ひとりに合わせた支援を行う。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		出勤時及び退勤前の掃除に加え、その都度消毒をおこなっている。	今後も継続していく。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			職員会議を継続していく。また、職員が意見を言いやすい環境を整えていく。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		毎回来所時に、ご本人の様子やご家族のご希望などを、用紙に記入して頂いている。	今後も丁寧に保護者の方々の意向を確認しながら支援に繋げていくようにする、
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			ホームページで公表していく。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		外部による第三者評価は行っていない。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		1～2ヶ月に1回研修の機会を確保している。	今後もサービス向上及び職員のキャリアアップを目指して企画していく。
適切な支援の 提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		STがその都度アセスメントをおこない、計画に反映させている。	STと児発管が情報共有を密にしながらニーズにあった支援計画を作成していく。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		STが標準化されたアセスメントツールを使ってその都度アセスメントをおこなっている。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			ガイドラインは事業所にも置いているが、支援計画の説明の際にも、ガイドラインも使って説明するようにしていく。 また今後支援計画書の書式をよりわかりやすいものに変更していく。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		毎回の見学に加え、月に1回支援内容記録を確認して頂いている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			個別での訓練が中心のため、全員でプログラム立案することは難しい。空き時間等見学をするなど、たくさんの職員がサポートできるようにしていく。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			一人ひとりに合わせて、また、成長に合わせて活動を工夫していく。また、チームで支援できるよう相談しながら計画していく。

提供	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○			基本的には個別の活動を行なっているが、ご希望や目標によっては小集団での活動も行なっている。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している		○	その都度行なっている。	朝、情報共有をおこなっているが、個別での訓練が中心のため、職員全員が全員の内容をすぐに把握することは難しい。空き時間等で情報共有するなど、たくさんの職員がサポートできるようにしていく。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		普段と違っていたことなど、単層職員だけでなく他職員と共有している。	朝、情報共有をおこなっているが、個別での訓練が中心のため、職員全員が全員の内容をすぐに把握することは難しい。空き時間等で情報共有するなど、たくさんの職員がサポートできるようにしていく。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			健診に参画するなど、今後も関係機関と連携していく。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○		医療的なケアが必要な児童は受け入れていない。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○		医療的なケアが必要な児童は受け入れていない。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		対面やオンラインにて担当者会議に参加している。また、担当の先生と情報交換を行なっている。	今後は、幼保小連絡会等にも参加や情報共有していきたい。また、今後もふくおか就学サポートノートの作成の援助を行っていく。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			同上
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		ほとんどのお子さんが保育園や幼稚園に通われており、こちらでは設定していない。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○			今後も自立支援協議会の子ども部会等に積極的に参加していく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		・保護者同伴での通所 ・毎回のアンケート記入依頼 ・公式LINEでの密な連絡	今後も継続していく。また保護者の感じたことを毎回尋ねる等、保護者が意見を伝えやすい雰囲気づくりを行う。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○			毎回保護者にフィードバックをおこなっている。今後、ペアレントトレーニングの講座も企画していく。	
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			今後も丁寧に説明をおこなっていく。	
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			支援内容等、丁寧に説明しているが、今後は、計画書の説明の際に、ガイドラインも見せながら説明するなど、工夫していく。また、計画書の書式の変更も検討していく。	

保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			個別の時間の中で、必ずお話を伺うようにしている。毎回保護者同伴での通所のため、できるだけ保護者の相談に乗ることができるようにしている。公式LINE等も使い、丁寧に対応していく。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		感染症のこともあり今までは保護者会等設定していない。今後検討していく。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			普段から丁寧に相談に乗ることができるよう努めている。通所日以外にも保護者だけが来所して相談に乗ることも可能である。柔軟に対応していきたい。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		○		保護者同伴での個別のため、会報等は発行していない。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		契約時に個人情報の取り扱いの同意書にて確認している	利用者さんがいらっしゃる時に他利用者さんの名前などを話したりすることがあるため、職員同士で声を掛け合うなどさらに気をつけていきたい。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		当事業所の特性上集団での活動や行事は現在難しいが、地域に開かれた事業所になるような工夫を今後検討していきたい。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○			マニュアルは作成済みであるが、当事業所の特性上利用者全員での訓練は難しい。職員の防災訓練や避難経路の確認を行なっていく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			マニュアルは作成済みであるが、当事業所の特性上利用者全員での訓練は難しい。職員の防災訓練や避難経路の確認を行なっていく。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		見学時及び契約時に確認している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		食事やおやつ提供は行っていない。アレルギーについては見学時及び契約時に確認している。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			ヒヤリハットについては事例集を作成し共有している。定期的に話し合いを行なっていきたい。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○			現在対象の児童がいないが、職員全体で話し合いながら、計画していきたい。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。